

全国学生調査に関する参考資料

学修者本位の教育への転換

～2040年に向けた高等教育グランドデザイン（平成30年11月中教審答申）より～

2040年に必要とされる人材像

予測不可能な時代を生きる人材像

- 普遍的な知識・理解と汎用的技能を文理横断的に身に付けていく
- 時代の変化に合わせて積極的に社会を支え、論理的思考力を持って社会を改善していく資質を有する人材

学修者本位の教育への転換

- 「何を学び、身に付けることができたのか」

+

個々人の学修成果の可視化



（個々の教員の教育手法や研究を中心にシステムを構築する教育からの脱却）

- 学修者が生涯学び続けられるための多様で柔軟な仕組みと流動性

学修成果の可視化と情報公表の促進

学生の学修成果の把握・公表

- 学生の学修成果に関する情報を的確に把握・測定し、教育活動の見直し等に適切に活用
- 各大学が地域社会や企業等の外部からの声や期待を意識し、積極的に説明責任を果たしていく意義
- 大学全体の教育成果の可視化の取組を促進し、公表

《把握・公表すべき情報の例》

- | | |
|---------------------------|---------------------|
| ● 単位・学位の取得状況 | ● 入学者選抜の状況 |
| ● 卒業後の進路の状況
（就職率、就職先等） | ● 留年率・中退率 |
| ● 学修時間 | ● 教員一人当たりの学生数 |
| ● 学生の成長実感・満足度 | ● 履修単位の登録上限設定の状況 |
| ● 学生の学修に対する意欲 | ● 早期卒業や大学院への飛び入学の状況 |
| | ● FD・SDの実施状況 等 |

- 各大学のみならず社会全体が効果的に活用することができるよう、国は、全国的な学生調査や大学調査を通じて整理し、比較できるよう一覧化して公表

全国学生調査について

概要

- 国として、**全国共通の質問項目**により、**学生目線から**大学教育や学びの実態を把握するための調査を実施。
- 大学・短期大学の学生を対象に、**大学での学習内容や経験、大学教育を通じて身に付いた知識・能力、大学での学びに関する意識**等について調査。調査結果は**各大学の教育改善、社会の大学教育に対する理解促進、国の政策立案の基礎資料**として活用。
- 令和元、3、4、6年度と4回の試行実施を行い、**今後、調査方法・質問項目等の調査設計を固め、令和7年度以降に本格実施**。

背景

- **学生がどのような能力を身に付けているかについて、社会に対する説明や情報公表が不十分**との指摘。
- 各大学が教育成果等の教育の質に関する情報を把握・公表していくこと、社会が理解しやすいよう、**国は全国的な学生調査等を通じて整理し、比較できるように一覧化して公表すべき**との提言。（平成30年11月中央教育審議会「2040年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」）

目的

- **各大学**が、フィードバックされた調査結果をIRやFD・SD活動、自己点検・評価等に活用し、自大学の教育改善を促進する
- **大学進学希望者やその保護者、地域社会や産業界、海外の留学関係者等**が、学生の学修成果や大学全体の教育成果に対する理解を深める
- **国**が、今後の政策立案に際しての基礎資料として活用する
- **学生一人一人**が、振り返りにより今後の学修や大学生活をより充実させ、卒業後の社会における自らの姿を考える契機とする

令和4年度（第3回試行実施）概要

【調査対象】

- 大学2年生及び最終学年 短期大学最終学年
- 参加意向のあった大学532校、短期大学148校

【調査方法】

- インターネット（WEB）調査

【調査時期】

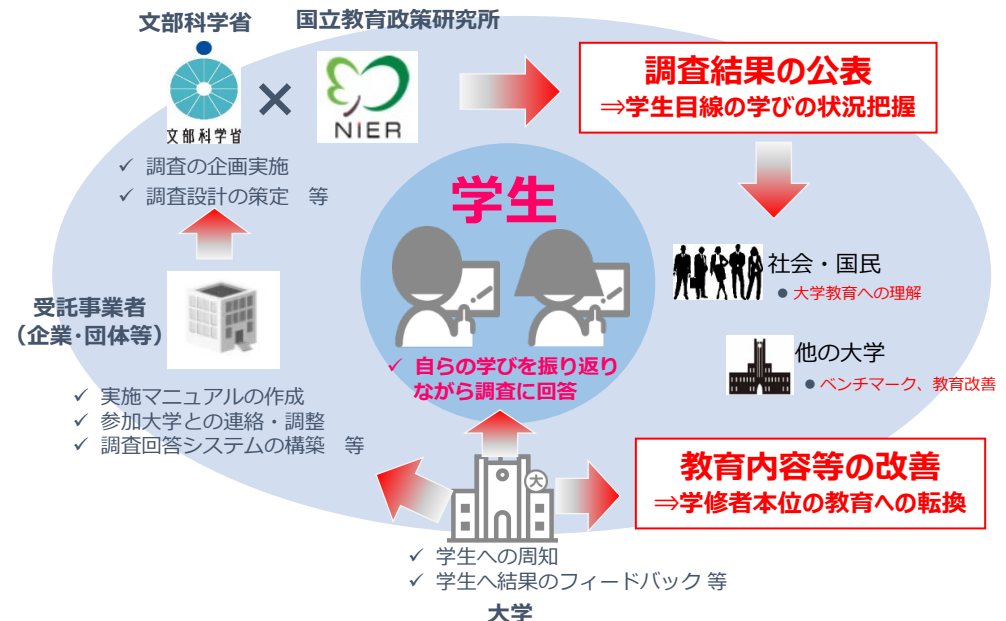
- 令和4年11月28日～令和5年1月20日
（令和5年7月12日公表）

【調査項目】

- 大学での学習内容や経験
- 大学教育を通じて身に付いた知識・能力
- 大学での学びに関する意識
- コロナ禍を受けた授業の実態 等
（選択式45問・記述式1問）

【調査結果】

- 全体の調査集計・分析結果や調査実施上の課題点等を公表（個別大学の結果については公表しない）
- 参加大学には自大学の調査結果をフィードバック



これまでの試行実施における全体回答結果について

調査実施年度	実施回	学校種	上段：参加大学数／全大学数 下段：参加率	上段：有効回答者数／対象学生数 下段：回答率
令和元年度	第 1 回試行実施	大学	515 / 764	111,051 / 407,014
			67.4%	27.3%
令和 3 年度	第 2 回試行実施	大学	582 / 803	112,341 / 949,482
			72.5%	11.8%
		短期大学	157 / 315	7,031 / 25,433
			49.8%	27.6%
令和 4 年度	第 3 回試行実施	大学	532 / 782	101,072 / 950,847
			68.0%	10.6%
		短期大学	148 / 309	6,805 / 24,376
			47.9%	27.9%

引用： 文部科学省「全国学生調査」の過去の報道発表資料に基づき作成
https://www.mext.go.jp/a_menu/koutou/chousa/1421136.htm

「全国学生調査（試行実施）」の検討経過と今後のスケジュール

区分	有識者会議における検討経緯	調査時期	結果公表
第1回 試行実施	学生調査の実施に関する有識者会議 令和元年5月17日：学生調査の実施に当たっての意見交換 令和元年5月23日：学生調査の実施に当たっての意見交換 令和2年2月5日：学生調査の結果公表に向けた意見交換 令和2年3月25日：（書面審議）学生調査の結果公表に向けた意見交換	令和元年 11月～12月	令和2年 6月16日
第2回 試行実施	「全国学生調査」に関する有識者会議 令和2年9月16日：「全国学生調査」に関する意見交換 令和2年10月21日：「全国学生調査」の本格実施に向けた意見交換 令和2年12月10日：「全国学生調査」の本格実施、令和3年度試行実施に向けた意見交換 令和3年2月17日： 「全国学生調査」の本格実施に向けた論点と今後の方向性、全国学生調査（第2回試行実施） 令和4年1月13日：全国学生調査（第2回試行実施） 令和4年9月16日：全国学生調査（第2回試行実施）の結果公表、第3回試行実施に向けた課題・論点	令和4年2月	令和4年 10月21日
第3回 試行実施	令和4年10月24日：全国学生調査（第3回試行実施） 令和5年6月23日：全国学生調査（第3回試行実施）の結果公表、今後の全国学生調査の実施方針	令和4年11月 ～令和5年1月	令和5年 7月12日
第4回 試行実施	令和6年3月11日：全国学生調査（第4回試行実施） 令和6年4月23日：全国学生調査（第4回試行実施） ※実施概要の決定	令和6年10月 ～令和7年3月	令和7年春～秋

「全国学生調査（第4回試行実施）」主な改善点

調査方法・調査実施時期

参加校数増加及び回答率向上に向けて、従来の文部科学省が実施するインターネット(WEB)調査(調査方法①)に加えて、参加大学が実施する学生調査(調査方法②)においても実施できることとし、参加大学が調査方法①または②から選択する。

調査方法①: 文部科学省が実施するインターネット(WEB)調査

【調査方法】 文部科学省が指定するURLに学生が直接回答

【実施時期】 令和6年10月～令和7年3月(約6か月間)のうち、各大学において1か月程度の期間設定を推奨する。

調査方法②: 参加大学が実施する学生調査

【調査方法】 大学独自の学生調査の中に本調査の質問項目を設定

【実施時期】 各大学の判断で令和6年度中に設定することができることとする。

質問項目

質問数48問を33問に精査するとともに、学生にわかりやすい簡潔な問に修正。なお、追加アンケート結果で、試行実施から本格実施で質問項目が変化することを懸念する声が複数あったことも踏まえ、本格実施においては、当面、原則として第4回試行実施の質問項目から変更しない方針とする。

調査結果の活用促進

(1) 国による情報公表(ポジティブリスト)

文部科学省において、各質問項目の上位校(ポジティブリスト)(参考1参照)とあわせて、上位校の教育方法や教育改善のグッドプラクティス事例を公表。ただし、一定の回答数(集計基準に基づき算出)を超えた大学を公表対象とする。

また、分野特性による影響を考慮して、原則として、分野別(一定数の母集団が得られることが前提)にリスト化することとする。

(2) 教学IR等の活用促進

全国学生調査の結果をまとめる教学IRレポートの雛形(参考2参照)を各大学に提供し、教育改善への活用を促す。

「全国学生調査（第4回試行実施）」質問項目

1. あなたが在籍する学部（学科）を選択してください。
2. 学部（学科）の分野を選択してください。
3. あなたの学年を選択してください。

問1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。
（選択肢：①よくあった、②ある程度あった、③あまりなかった、④なかった）

4. 理解がしやすいように教え方が工夫されていた。
5. 予習・復習など授業時間外に行うべき学習が指示される。
6. 課題等の提出物に適切なコメントが付されて返却される。
7. グループワークやディスカッションの機会がある。
8. 質疑応答など、教員等との意見交換の機会がある。
9. ティーチングアシスタントなどによる補助的な指導がある。

問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。
経験していない場合は⑤を選択してください。
（選択肢：①有用だった、②ある程度有用だった、③あまり有用ではなかった、④有用ではなかった、⑤経験していない）

10. インターンシップ（5日間以上）
11. 海外留学・海外研修（短期も含む）
12. 主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。
（選択肢：①身に付いた、②ある程度身に付いた、③あまり身に付いていない、④身に付いていない）

13. 専門分野に関する知識・理解
14. 将来の仕事につながるような知識・スキル・態度・価値観
15. 文献・資料を収集・分析する力
16. 論理的に文章を書く力
17. 人に分かりやすく話す力
18. 外国語を使う力

19. 数理・統計・データサイエンスに関する知識・技能
20. 問題を見つけて解決方法を考える力
21. 他者と協働する力
22. 幅広い知識、ものの見方
23. 異なる文化に関する知識・理解

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。
（選択肢：①そう思う、②ある程度そう思う、③あまりそうは思わない、④そうは思わない）

24. 卒業時まで身に付けるべき知識や能力を意識して学修している。
25. 授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。
26. 教職員が熱心に教育に取り組んでいる。
27. 大学の学びによって成長を実感している。

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。
（選択肢：①0時間、②1-5時間、③6-10時間、④11-15時間、⑤16-20時間、⑥21-30時間、⑦31時間以上）

28. 授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）
29. 卒業論文・卒業研究・卒業制作（Q3で2年生を選択すると非表示）
30. 予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）
31. 授業と直接関係しない自主的な学習
（学問に関係する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）
32. 部活動／サークル活動
33. アルバイト／定職

34. 本調査や、大学での学びについて意見がありましたら教えてください。
（自由記述）【調査方法①のみ】

〇〇分野

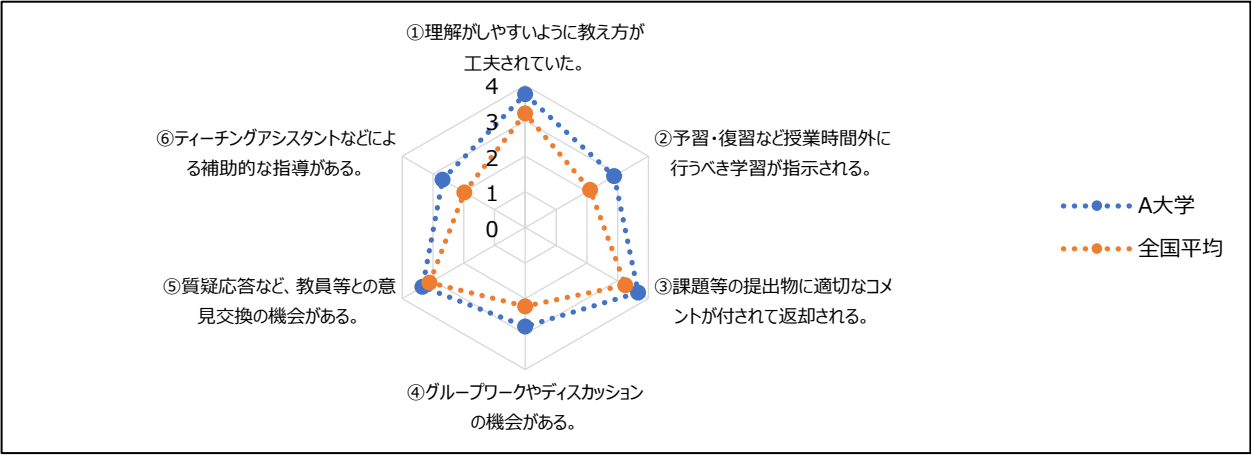
理解がしやすいように教え方が工夫されていた					
No.	大学名	学部	スコア	回答数	回答率
1	A大学	xx学部	xx	xx	xx%
2	B大学	xx学部	xx	xx	xx%
3	C大学	xx学部	xx	xx	xx%
4	D大学	xx学部	xx	xx	xx%
5	E大学	xx学部	xx	xx	xx%
6	F大学	xx学部	xx	xx	xx%
7	G大学	xx学部	xx	xx	xx%
8	H大学	xx学部	xx	xx	xx%
9	I大学	xx学部	xx	xx	xx%
10	J大学	xx学部	xx	xx	xx%

理解がしやすいように教え方が工夫されていた					
No.	短期大学名	学科	スコア	回答数	回答率
1	A短期大学	xx学科	xx	xx	xx%
2	B短期大学	xx学科	xx	xx	xx%
3	C短期大学	xx学科	xx	xx	xx%
4	D短期大学	xx学科	xx	xx	xx%
5	E短期大学	xx学科	xx	xx	xx%
6	F短期大学	xx学科	xx	xx	xx%
7	G短期大学	xx学科	xx	xx	xx%
8	H短期大学	xx学科	xx	xx	xx%
9	I短期大学	xx学科	xx	xx	xx%
10	J短期大学	xx学科	xx	xx	xx%

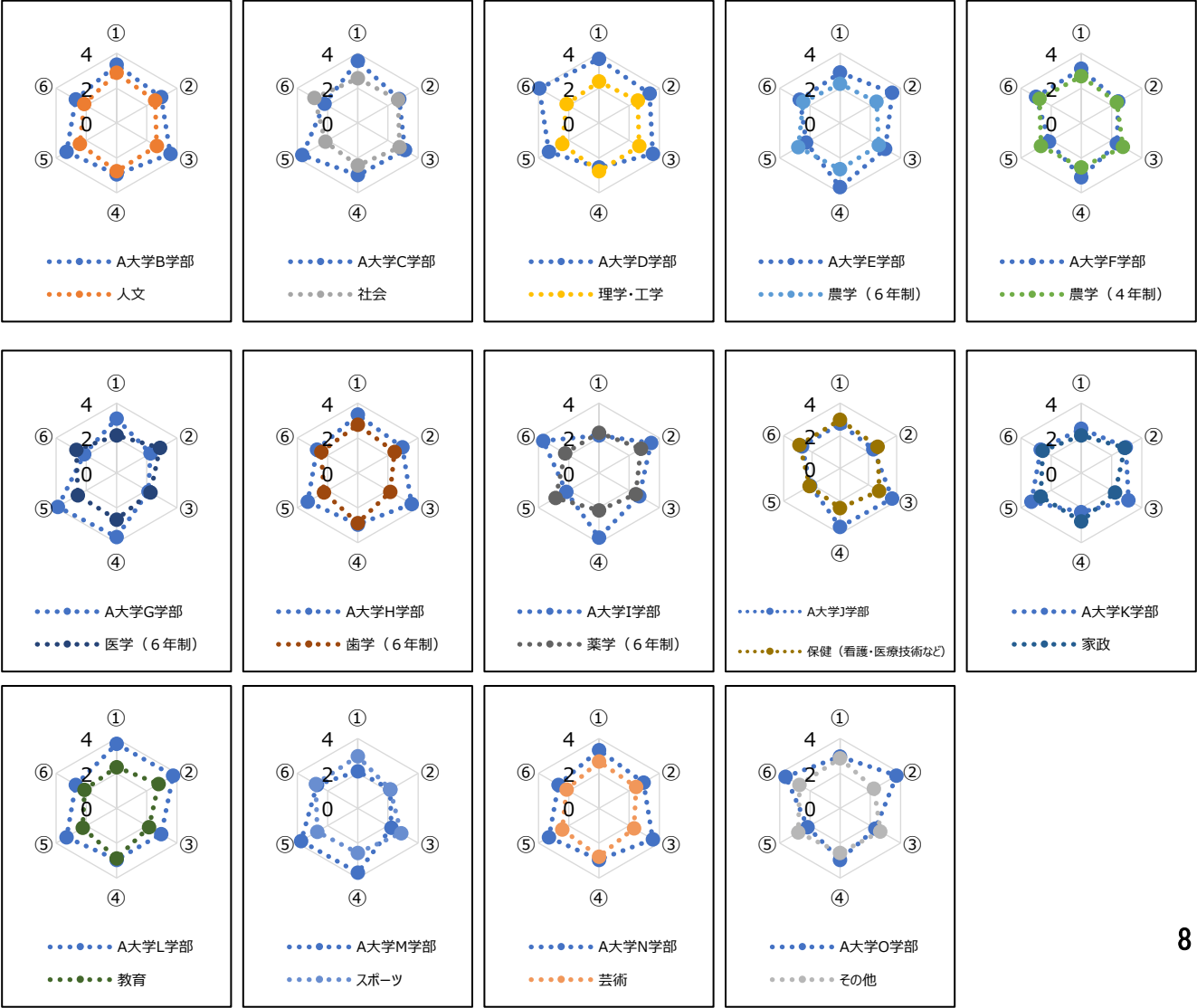
大学： A大学

問 1 大学に入ってから受けた授業で、次の項目はどのくらいありましたか。

<A大学と全国平均との比較>

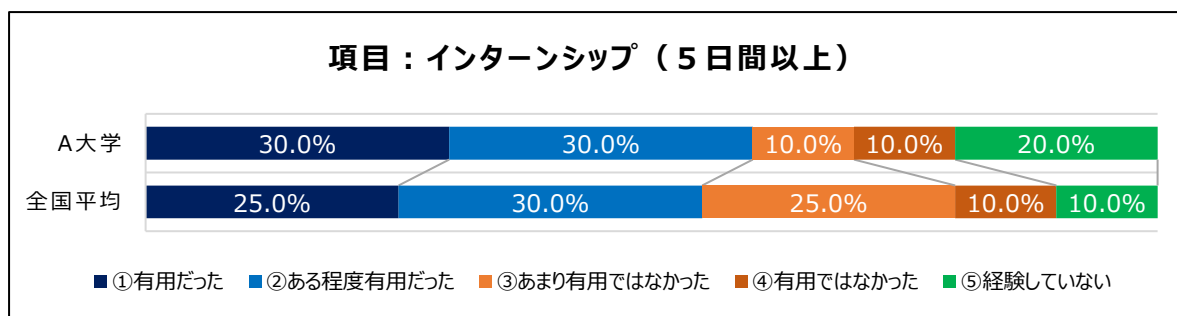


<A大学の各学部と分野平均との比較>

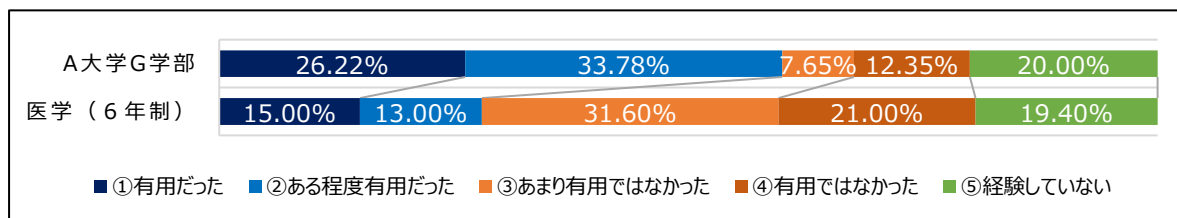
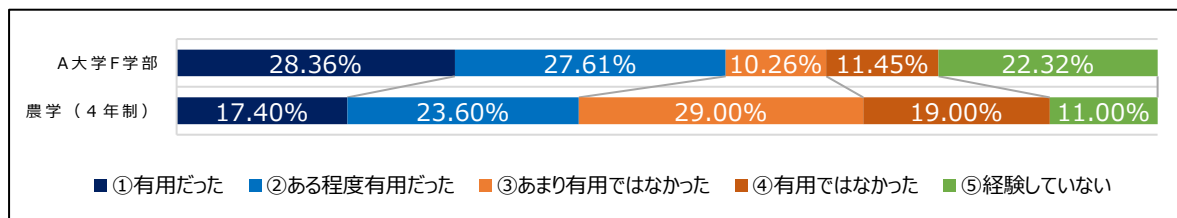
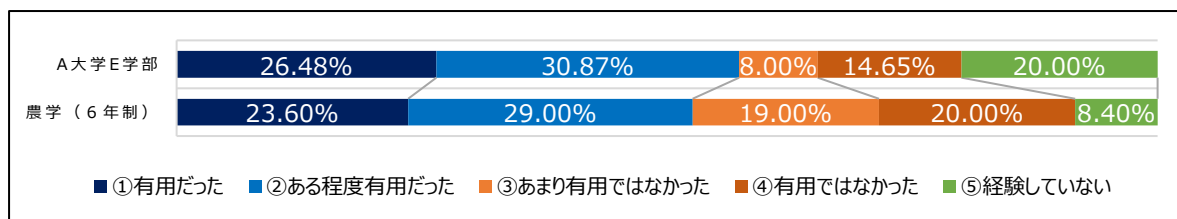
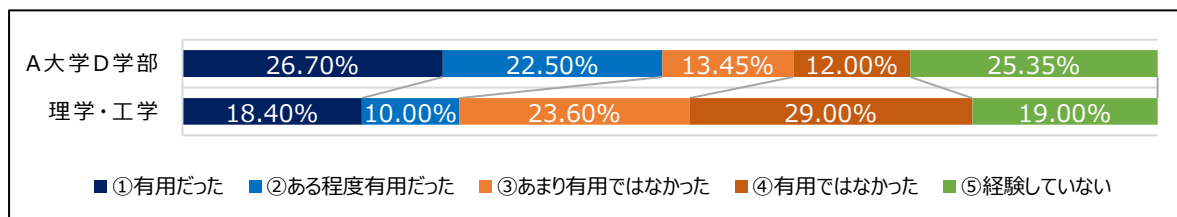
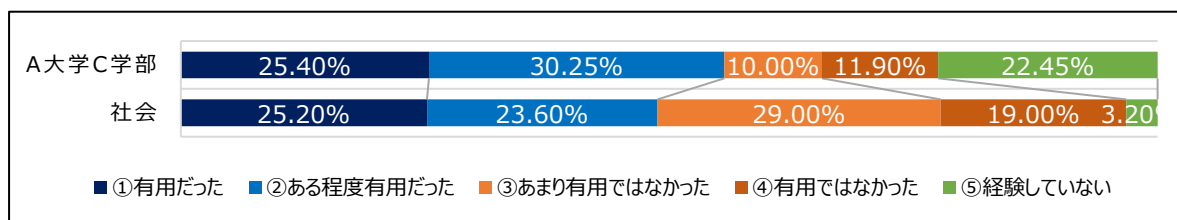
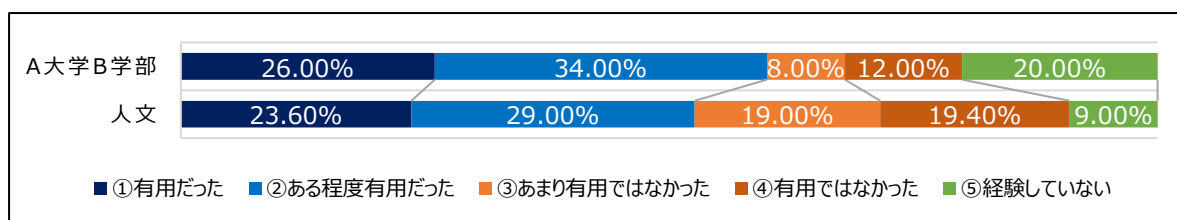


問2 大学在学中に経験した以下の項目はどの程度有用だったと感じますか。経験していない場合は⑤を選択してください。

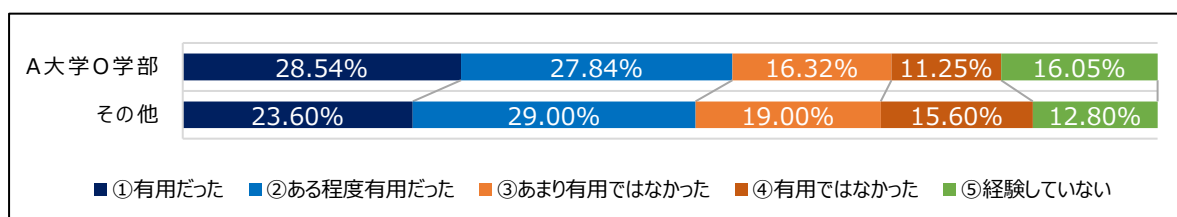
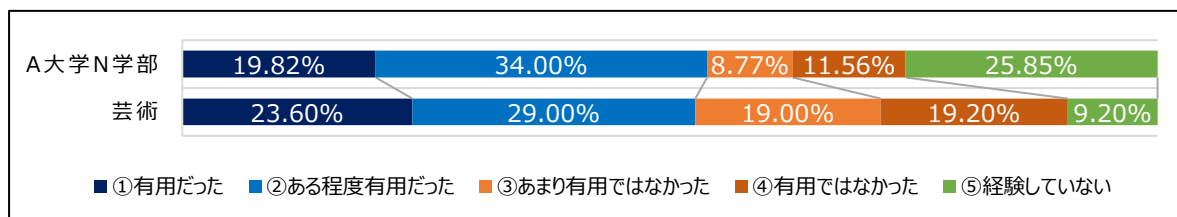
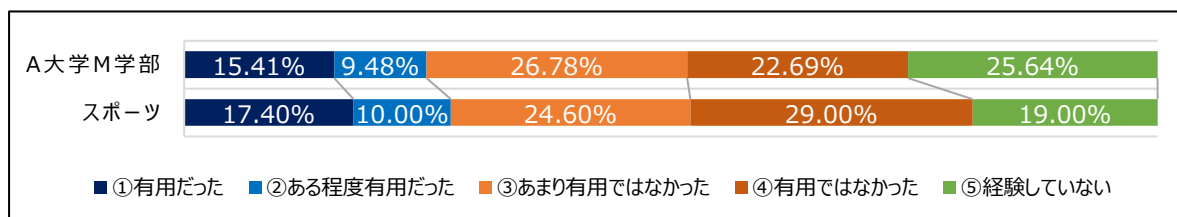
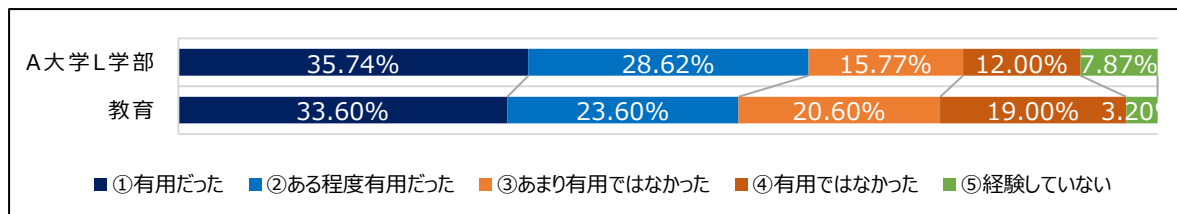
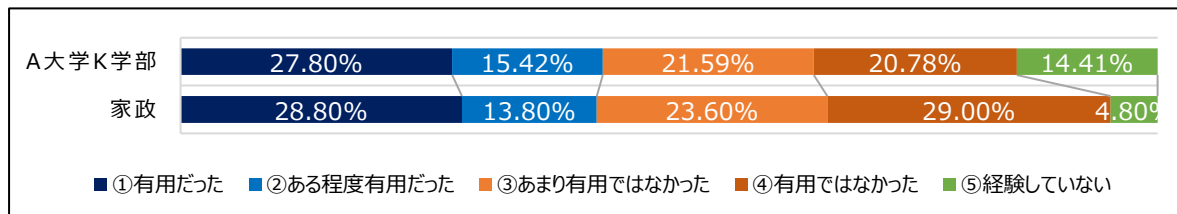
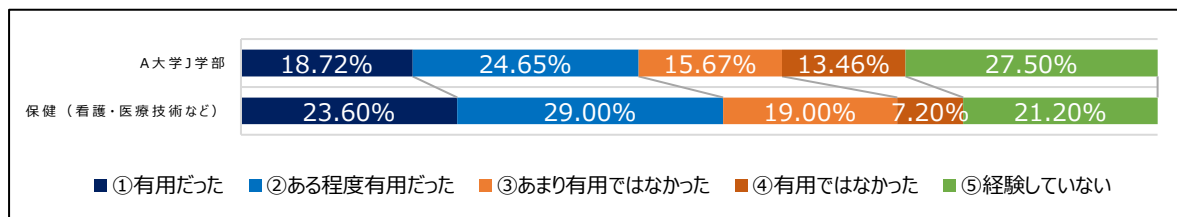
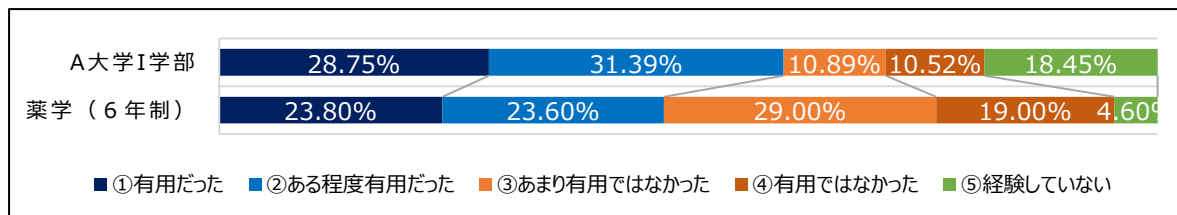
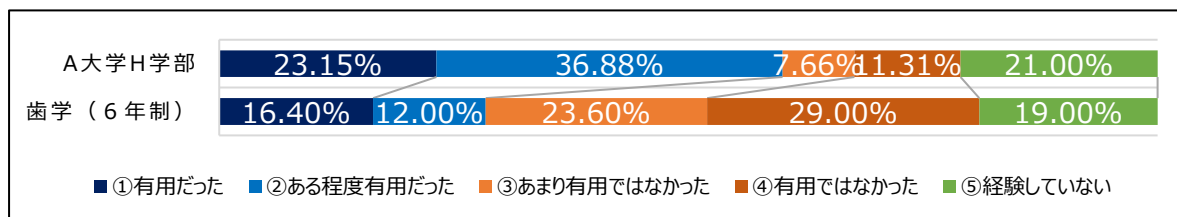
<A大学と全国平均との比較>



<A大学の各学部と分野平均との比較>



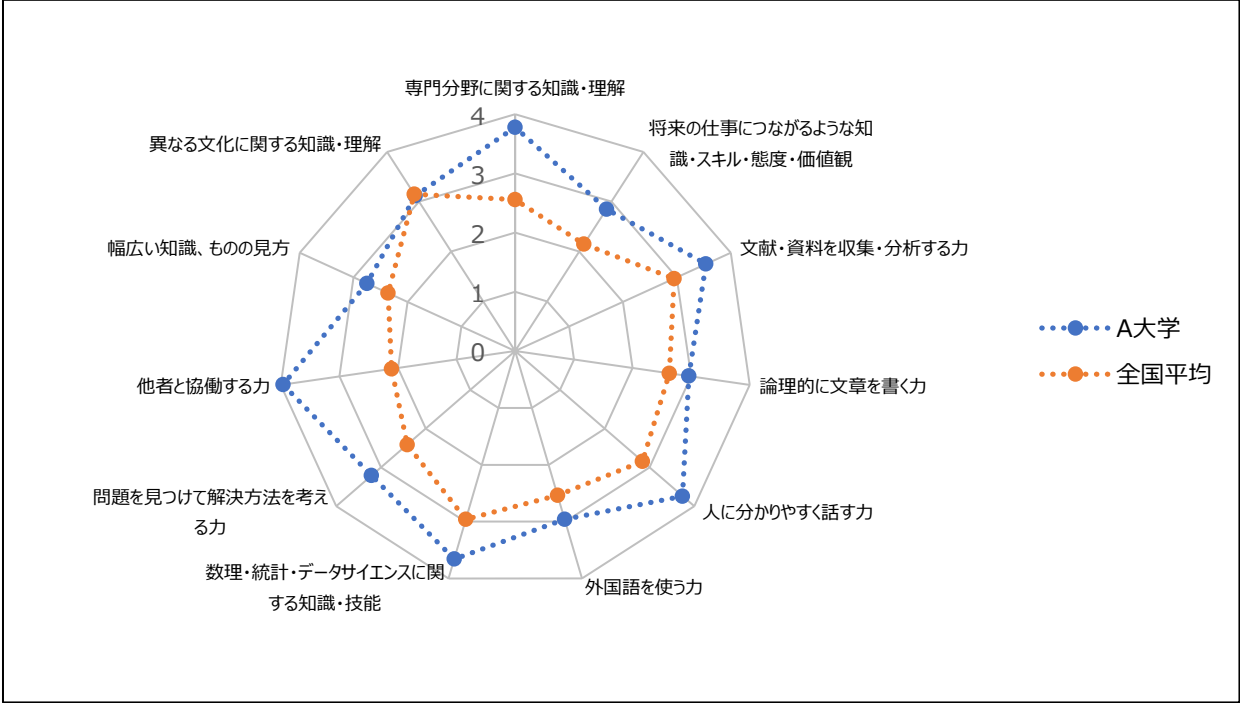
令和6年度「全国学生調査（第4回試行実施）」 教学IR様式イメージ



※上記項目の他、「海外留学・海外研修（短期も含む）」、「主に英語で行われる授業の履修（語学科目を除く）」、についても同様に掲載。

問3 大学教育を通じて、次のような知識や能力などが身に付いたと思いますか。

＜A大学と全国平均との比較＞

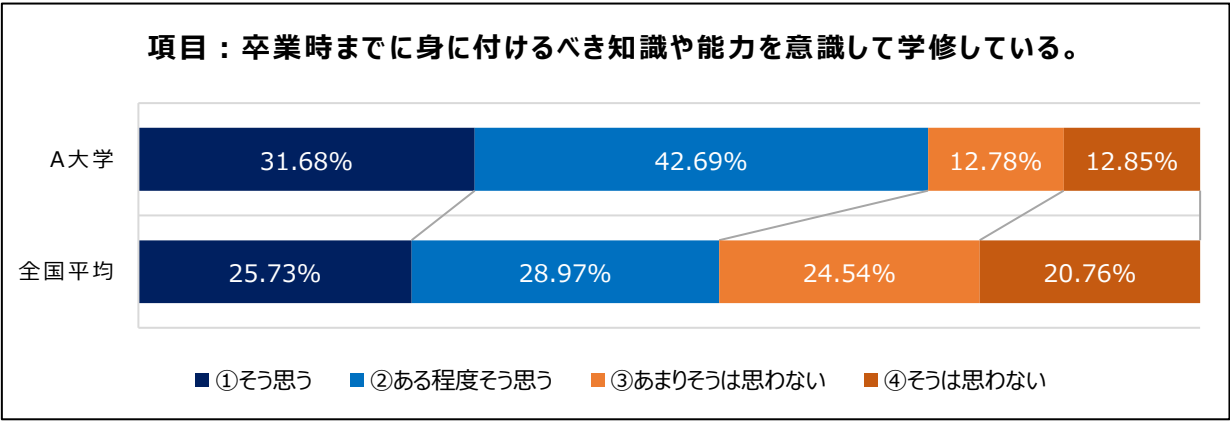


＜A大学の各学部と分野平均との比較＞

※問3についても、問1（1ページ）同様、学部分野ごとにレーダーチャート形式で掲載。

問4 これまでの大学での学び全体を振り返って、次の項目についてどのように思いますか。

＜A大学と全国平均との比較＞



＜A大学の各学部と分野平均との比較＞

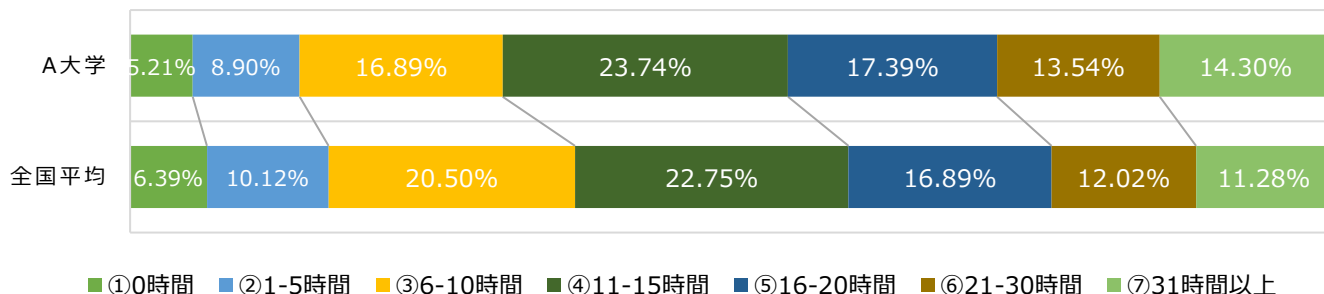
※問4についても、問2（2～3ページ）同様、学部分野ごとにグラフ形式で掲載。

※上記項目の他、「授業アンケート等の学生の意見を通じて大学教育が良くなっている。」、「教職員が熱心に教育に取り組んでいる。」、「大学での学びによって成長を実感している。」についても同様に掲載。

問5 今年度後期の授業期間中の平均的な1週間（7日間）の生活時間は、それぞれどのくらいですか。

<A大学と全国平均との比較>

項目：授業への出席（実験・実習、オンライン授業を含む）



<A大学の各学部と分野平均との比較>

※問5についても、問2（2～3ページ）同様、学部分野ごとにグラフ形式で掲載。

※上記項目の他、「卒業論文・卒業研究・卒業制作」、「予習・復習・課題など授業に関する学習（卒業論文等は除く）」、「授業と直接関係しない自主的な学習（学問に関する読書やディスカッション、実技の練習、資格試験の勉強等）」、「部活動／サークル活動」、「アルバイト／定職」についても同様に掲載。